令和４年度第１回　部活動の地域移行のあり方検討委員会　議事要旨

令和４年 11 月 10 日（木）15:00
神戸市総合教育センター701 号室

１　事務局報告

（１）神戸市における中学校部活動の現状について

・生徒数の減少や部活動顧問の負担による、現行部活動の運営が困難になっている状況
・部活動指導員制度、中学校・義務教育学校部活動ガイドラインの制定、拠点校部活動について
・中学校部活動の地域移行を見すえた実践研究の取り組み

（２）地域におけるスポーツ活動について

・神戸総合型地域スポーツクラブの歴史、現状について
・市民スポーツ大会の開催、スポーツ関係団体との連携・展開
・地域における文化芸術活動について

２　各委員による意見等

○中学校部活動および地域活動の現状について

・（委員）文化センター等への参加、神戸市民体育大会や神戸市総合体育大会への参加、神戸総合型地域スポーツクラブへの中学年代の関わりはどのような形態か。
→（事務局）比率としては高齢者が多い。大会は、中学生の部という形で実施をしている。地域スポーツクラブに参加する中学生は僅かである。
・（委員）総合型スポーツクラブが、部活動の地域移行の受け皿となると考えた時、平日の指導者や活動場所、会費等における課題が生じることが予想される。これについてはどう考えているか。
→（事務局）このような打ち合わせの場で、課題を洗い出すことから始めていかなければならない。

○当会の今後の進め方および予定について

・（委員）部活動は人間形成を基に指導してきた経緯がある。地域移行にはメリットもデメリットもある。地域移行をして専門的な技術指導を受ければ、子供にとってはプラスになる。その上で先生方の負担軽減になればよい。
・（委員）学校と地域の関係は重要だが、土日の活動が多く教員には大きな負担になっている。一方思春期に文化や地域の伝統に触れることは大切で、その意義も考えて移行を進めていくべき。
・（委員）部活動の地域移行は短期では完結しない事業なので、持続可能な体制・制度作りが必要。
・（委員）学校以外の団体に委託・依頼する場合、適切な評価や認証について考えなければならない。
・（委員）中学校には、部活動ガイドラインがある。地域移行したとしてもこのやり方が主になる。
・（委員）部活動のように生徒指導機能があるところは良いが、完全に代替することは難しい。そこは難しいところ。費用面をどうするか。スポ―ツあるいは文化の裾野は狭まる可能性がある。

→（委員）学校活動の延長と捉えるのか、休日部活動は学校と切り離すのか。

・（委員）今後アンケートを取るという方針なので、地域クラブにもアンケートをして、そのクラブに適用した受け皿を作っていくと解決の方向も見えてくる。

・（委員）文化芸術の場合は、これからいろんなミスマッチが起きていく。どこが担っていくのか、適性があるのかを見極めるだけでも、非常に大きな問題がある。

→（委員）中学生世代のニーズは多様化している。一方で中学校部活動の枠組みは旧態依然としている。部活動のあり方を考える必要がある。

・（委員）専門的にやりたい生徒がどれくらいの割合か、緩やかな活動参加をしていく流れはあるのか、ということは大事な観点。中学校生活の一コマとしての部活動観を考える必要がある。

・（委員）外部指導員制度の強化というのも、有意義ではないか。

→（事務局）外部顧問を増やすということは学校支援になると思う。

３　委員長による総括

今回は、問題にされているところが出たという印象。ぜひとも、前向きな議論にご協力いただきたい。

４　担当部長より

当面の検討課題は、受け皿や指導者をどう確保するか、保護者の経済的負担をどうするのか、平日と休日の活動をどうリンクさせるか、といったことが中心的課題となる。これから、また新たな課題が出てくるが、ここ数年は続く。事務局として気づいていないことも多いが、次回以降ぜひ積極的な意見を賜りたい。